

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3597330020		
法人名	社会福祉法人 施福会		
事業所名	グループホーム みずき		
所在地	山口県熊毛郡田布施町大字宿井416番地4		
自己評価作成日	令和4年11月21日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島県広島市南区皆実町一丁目6-29		
訪問調査日	令和4年12月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>日々の生活の中で、食事作りや家事など、その方の出来る力を活かし、達成感を持てるように、一人ひとりに細やかな配慮を行い、生き生きとした生活が行えるよう支援しています。職員が間に入る関わりだけでなく、利用者同士が協力し、助け合い、利用者同士で楽しく過ごせる場の提供をしています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>地域密着型サービスの意義をふまえた理念に基づき、利用者のできること、特徴や強みなどに着目し、日常の中で様々な活躍できることを繋いでいき、利用者が主体となった生活を形成し、その人らしい生活を実現する支援を実践している。コロナ禍にて外出支援が難しい中、室内でできることを意識し、ハーモニカ演奏ができる方と演奏会を行ったり、ミニ運動会を開催するなど工夫を凝らしている。ストレス軽減も意識し日常的な散歩も取り組んでいる。言葉掛けにも利用者への敬意や尊厳を大切にし取り組むことで、利用者が理解し易い働きかけや誘導となり、安心の持てるケアにて自己実現に向けた生活を支援している。職員間は相互に注意し合える関係性を築き、話しやすいよう配慮している。地域との交流も盛んであり、地域包括支援センターとの結びつきも深く、町とも顔の見える関係作りを実践し地域との連携を図っている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目 (1号館)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえた理念を作成し、事務所内へ掲示している。又、月1回のミーティングで理念を唱和し、共有、実践に繋げている。	開設時に作成した理念は地域密着型サービスとしての意義をふまえた内容になっており、毎月ミーティングで唱和し共有している。日々のケアにおける取り組みや対応にも理念に紐づけた取り組むべき目標を明確にし、職員全員で一貫した方向性を持ち、取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は、買物や地域の行事(城南公民館祭りやどんど焼き等)に参加したり、馴染みの場所に出掛けたりして、知人に会ったりすることで地域との交流を持てるようにしていたが、コロナ禍にて、なかなか地域との交流が持ていない状況である。	コロナ禍であり地域行事の中止が続く中、今年はずっとの開催に声がかかりドライブに行き、様子を離れた場所から眺めることができた。以前は毎年法人の祭りをを行い、地域の方や家族とのふれあいの機会となっていた。法人を通しボランティアの慰問などふれあう機会も多くある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は、利用者が地域に参加することで地域の人々が理解しようという姿勢を見せていたり、高校生の介護実習を受け入れ、認知症の方への支援方法を教えていたが、コロナ禍にて、できていない状況である。	/	/
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	良い所も悪い所も含めて、職員で話し合い、次のステップに生かし、日々向上できるようにしている。又、ミーティング等で評価を共有し改善に取り組んでいる。	毎年職員は自己評価を行い、振り返ることでそれぞれの普段の取り組みを見直し気付くきっかけとなり次のステップに繋げている。年度末のミーティングにて職員で話し合うことや、外部評価もミーティングで話し合い振り返りを共有することで意識を高め日々の支援に反映させている。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は途中より、2ヶ月に1度の運営推進会議がコロナ禍により開催できず、書面(文書)を郵送し、報告している。又、書面にて意見を確認し参考にしていく。	利用者や家族代表をはじめ、地域包括支援センター職員や民生委員、公民館館長、消防署長など様々な関係者の参加があり意見交換を行っている。コロナ禍にて文書による開催が多いが、事前に意見をもらうことやみずき便りをユニットそれぞれに作成し共有を深めるよう工夫している。	

自己	外部	項目 (1号館)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町担当者には、以前は運営推進会議に出席していただいていたが、コロナ禍にて出席できない為、電話や窓口で直接出向いて相談等をしている。	地域包括支援センターとは運営推進会議で意見交換を行うなど普段から関係性を深めている。利用相談やオレンジカフェの誘い、地域の相談窓口として受け入れの依頼に協力を行うなど密に連携を図っている。町には入退所の書類や事故報告書を持参し担当者とは話をしている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修をミーティングで行い拘束しないケアをしっかり話し合っている。施錠は利用者の安全が第一で、安全が確保できない場合は家族の了承を経て、センサーマットや玄関施錠をおこなっている。	年2回の研修や、毎月、法人各部署が参加するリーダー会議にて事故報告や気になる事案の検討や振り返りを行い、内容をミーティングにて全員が共有し身体拘束防止について理解を深めている。日々のケアにおいて、事案やリスク、気付きを職員間で都度話し合い意識し取り組んでいる。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングや研修で虐待防止について勉強し又、話し合いやお互いに注意しあえるようにし、未然に防止できるよう努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は活用されている方はいない。必要があれば支援を行えるようしたい。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族に対し入所時、改定時等に説明、合意を得るようにしている。契約後でも疑問があれば、答えるようしている。		

自己	外部	項目 (1号館)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に、相談、苦情の受付体制については家族へ説明している。家族が面会に来られた際には、日常の様子などを話して関わりを持ち、ちょっとした相談でも聞けるようしている。	面会時や電話連絡を細めに行い家族からの意見を聞く機会を意識し、希望には都度対応に努めている。食事の不安に栄養補助食品の検討や面会も窓越しではなく距離を取りふれあいの感覚を強く持てるなど工夫している。利用者の希望にもその瞬間を大事にする対応を心掛け実践している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングで、提案や話し合いをし、皆で共有し反映している。又、随時意見や提案を聞き実行できるよう努力している。	毎月のミーティングにて職員の意見を出せる場として話し合いを行っている。普段から意見があげやすく、管理者のロッカーにメモをつけることなど職員がいつでも思いや意見を表出できるようにしている。管理者は必要に応じ、法人に相談し検討を行うなど意向の実現に努めている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間内に帰れるように、流れをつくっている事や職員同士で連携をとっている。行事の担当や個別対応などをし、利用者の新たな一面を知る事で達成感を得られるようしている。又、働きやすいよう、希望休暇や希望時間を聞き出来る範囲で努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	以前は希望があれば業務の一環として研修へ行けるようにしていたが、コロナ禍にて外部研修には参加できていない。その分、ミーティングで内部研修を行い、個々の質の向上に努めている。	年間研修計画を作成し取り組んでいる。コロナ禍で外部研修参加が難しい状況下において、参加した研修は伝達研修を行い、ミーティングにて内部研修を意識的に行っている。日常的に個別の指導や職員相互に教え、助け合える体制を整えている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に入会している。今年度はコロナの影響と時間が会わず研修に参加できてはいるが、来年度は他施設の方々とお互い施設見学し合い交流していきたい。		

自己	外部	項目 (1号館)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族からの情報を元にししっかりコミュニケーションを取り、不安や要望を聞きながらアセスメントを実施している。また、気持ちや思いを傾聴し、心の距離を縮めることで信頼関係を作るようにしている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が話しやすい環境作りを心掛けており、又困っていることを聞きつつ、本人が生活する中で家族と話し合いをして関係作りに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	しっかり聞く事で、何が必要なのか考え、本人や家族と相談しながら、必要とするサービスを見つけている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活する中で対等の立場で接すると共に、尊敬の念を抱いている。、又、料理などの本人ができる事や得意な事を教えてもらう姿勢を持つよう心掛けている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と共に過ごす時間や思いやる気持ちを大切にしながら、コミュニケーションをとっている。本人の困りごとや希望がある時は、必要があれば家族にも協力してもらっている。又、面会の際は日々の状況を伝えている。		

自己	外部	項目 (1号館)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前は、個別外出で馴染みの場所や美容院などに行くようにはしていたが、コロナ禍にて外出できていない。近所の方が面会に来られることもある。	コロナ禍以前はなじみの店へ買い物や、昔からの行きつけの喫茶店でコーヒーを飲んだり、帰宅や墓参りに行くなど個人のなじみや生活背景を理解し、個々に思いを繋ぐ支援を行っていた。普段の会話を大切にし、密に関わることの意識を持ちその時の思いに寄り添う支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、デイルームの座席を考えたり、廊下やデイルームの一部に利用者同士がゆっくり話せて過ごせるスペースは作っている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	機会があれば、現在の様子をうかがえる様にしたり、相談があれば対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人をしっかりと観察し、会話や行動の中で、何を必要としているかを見極め、会議で検討し、職員間で共有している。	一人ひとりに着目することを基本に、ケース担当が主になり日々の生活の様子や思いを詳細に把握している。ミーティングにて情報を全員で共有し随時の検討にて支援を行っている。家族からも日頃の様子を伝える際や介護計画作成時に確認し利用者への理解を深めている。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人の生活歴、馴染みの暮らし方、生活習慣、生活環境などについて、家族からの聴き取りや資料により、情報収集をきちんと行っている。		

自己	外部	項目 (1号館)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人に寄り添い、しっかりと関わりながら見守り、観察し、身体・精神状態、できること、できないこと、1日の生活リズム等の把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の想いや家族の意向、主治医や職員の意見を参考にして、ケース会議で意見交換することにより、その人に合った計画を立てている。	ケース会議の内容やケース担当が3か月ごとに行う評価、介護経過記録をもとに、ケース担当と計画作成者が中心に原案を立案し、内容を全員で確認し、気が付があれば修正を行い本プランを作成している。本人のできることへの着目や、思いの実現や達成を意識し作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録や申し送りで、日々の様子や気づきを共有し、それに基づいたケアを職員間で連携している。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員間の情報を密にして、ニーズの変化、状態の変化に対応できるように努めている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は個別で地域の公園に紅葉散策したり、パンが好きな方には移動販売を利用し、好みのパンを購入したりスーパーへの買物や馴染みの美容院等への外出などもしていたが、コロナ禍により支援ができない状況である。		

自己	外部	項目 (1号館)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は基本家族が行っているが、遠方の家族や、緊急時には看護師又は職員が対応している。状況が変わった利用者や家族の希望があれば、職員も受診に付き添い、家族や主治医とも情報を共有できるようにしている。	利用開始前のかかりつけ医も家族の受診協力を得る形にて継続が可能である。協力医は毎月の訪問診療や随時いつでも相談を行い、現在は協力医に変更するケースも多い。専門治療が必要な場合は以前からの病院受診を継続するなど、個々の状況に即した健康管理支援を行っている。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の中で気づいたことを看護師へ相談したり記録に残している。家族の医療的な希望や疑問も看護師へ伝え、出来るだけ看護師本人から家族へ説明してもらったり受診に付き添ったりして、医療面でも安心できるようにしている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃より、病院関係者(連携室)との関係づくりに努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化する前から利用者の状態を、家族とも話し、重度化した際に、他施設や病院への入所・入院も含めて支援できるよう取り組んでいる。	看取りは実施していない。利用開始時に重度化した場合の指針を伝え理解を得るとともに、併設する特別養護老人ホームにも入所申請を行うこととしている。状態の変化に家族と話をしながらできる限りの対応を行い、必要に応じ病院や他施設などへ適宜繋げる支援を行っている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	コロナ禍により外部研修には参加できていない。ヒヤリハットの反省を通じて、事故を未然に防げるよう、常に安全を意識しながら利用者にかかわっている。	事故、ヒヤリハット内容の反省とともに原因分析を講じ対策や改善に繋げている。運営推進会議で報告し周知に努めている。未然に防げるよう普段から気づきなど都度に検討し職員の意識を高め支援している。消防署立ち会いのもと、併設事業所と合同で心肺蘇生訓練を行っている。	

自己	外部	項目 (1号館)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に1回、消防署の協力を得て避難訓練をしている。非常時には同一法人内で協力体制ができており、併設特養は地域の避難場所となっている。非常時に備え、常に水や非常食の備蓄をしている。又、連絡網を作成し、連絡できるように協力体制を築いている。	年間3回グループホーム単独で訓練を実施し、うち1回は消防署の指導にて行っている。昼夜それぞれの対応や災害時を想定し実施している。災害時の地域との連絡網も整備しており有事には連携を取れるようにしている。災害別のマニュアル整備や食料や水を備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけないよう気を付けており、その人にあった言葉かけを心掛けている。	接遇やプライバシー保護の研修を行い、利用者への人格の尊重を遵守することや、認知症の理解を深め、一人ひとりを敬い自尊心を大切にす支援に努めている。利用者からもみられているということの自覚を持つことを促し、誰が見ても納得できるケアの取り組みに尽力している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いを口に出せるような雰囲気、環境を作り、表情や発言を見ながら、自分で選択できるよう支援している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな流れはあるが、本人のペースに合わせ、臨機応変に対応している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみの習慣を大事にし、それが続けられるようしている。自分で好きな衣類を選んでもらったり、化粧品を購入したりしている。難しい方は、衣類の量を減らしたり、化粧品や櫛を目立つところに置いたりしている。		

自己	外部	項目 (1号館)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べ物の好き嫌いを聞き把握することで、献立に活かせるようにしている。食事の準備は、何が出来るかを把握し、考えたり、達成感が持てるようにしている。片付けは、自分の物を職員が手伝いながらできることをしてもらっている。	3食とも手作りにて提供している。手作りにて行うことで好きなものや季節のものを献立に反映しやすく利用者の食の楽しみとなり、利用者の活躍の機会が得られやりがいに繋がっている。コロナ禍以前は道の駅での外食など行事や外出支援も数多く実施していた。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量が少ない方には、好みのものを提供したり、食器を小さくして量を少なく見せたりという工夫をしている。又、特に少ない方には高カロリージュースやゼリー等も提供している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	習慣になっている方は、継続できるよう環境を整え、出来ない方は気持ちに配慮しつつ声掛けや、口腔ケアセットを用意したり、歯磨きを手伝うなどしている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表への記録をすることで、パターンを把握し、失敗を防ぎ、自然にトイレへ行けるよう工夫している。難しい方は、言葉に配慮しながら声掛けをしている。	排泄はトイレに座って行うことを基本としている。排泄表を活用し利用者個々の状況や排泄パターンを把握し、一人ひとりに合わせた誘導や介助を行うことで自然にトイレへ行き行っている。声掛けにも自尊心を損ねない配慮をし、排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬の内容や、日常の活動状態の把握、精神状態を把握するようしている。水分をとったり、運動をしたりしている。時には看護師に相談し、便秘薬を使用する事もある。		

自己	外部	項目 (1号館)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	個々に応じた入浴時間の確保は困難ではあるが、希望の入浴時間や温度調整が出来るようしている。入浴も自分から入ろうと思えるような声掛けも工夫している。	週2回、午後から行い、入浴時間もできる限り個々の希望に添ってゆっくりと入れるように支援している。入りたくない方へも散歩をして「汗を掻いたのでさっぱりしましょう」など本人が納得しやすい声掛けを行うことや、職員が変わり誘導するなど無理強いすることなく入浴へ繋げている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣を把握し、休息や休む際には、光や音楽など落ち着いたものにするなどしている。又、昼食後お昼寝の習慣になっている方も数名おり、環境に配慮している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のロッカーに、薬の情報を貼っておき、職員がすぐに見えるようにしている。服薬は、名前、日時を確認し、手に出してあげきちんと服薬したかを傍にいて確認している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴から把握し、裁縫や折り紙、塗り絵など個々に合った趣味をしてもらったり、時には皆で協力して出来ることもしている。	利用開始時に本人、家族からこれまでの生活を確認し、一人ひとりの生活背景や趣味などを把握している。得意であったこと、好きなことを個々に理解し役割や普段のレクリエーションにてそれぞれに活躍できる場や取り組みを意識して作り支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日には本人の希望を聞きながら散歩をしているが、コロナ禍の為、外出支援は思うように行えていない。	コロナ禍においても、利用者の出かけた意向に可能な限り実践に努めている。春のドライブで景色の良い場所にて眺め、交流館で集合写真を撮ったり、お弁当を持参し花見に出かけている。大規模公園や紫陽花を見に行くなど様々に外出支援を行っている。散歩も日常的に行っている。	

自己	外部	項目 (1号館)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知力が低下しほとんどの方が自分で支払いできなく、お金を所持していない状況である。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状などを書けるよう支援している。家族より何か届いた場合は、お礼の電話ができる様にしている。又、携帯電話を持っておられる方もおり、家族より電話がかかってくるりしている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や掲示物を飾ったりしている。利用者が過ごしやすいよう、音楽や照明をその時々に変えたり、空調の調整や換気を行い、快適な室温管理を行っている。	リビングは広く開放的な造りであり、所々ソファや椅子を置き自由にゆったりと過ごせるようにしている。散歩で摘み取った花を生けたり、季節の作品を飾るなど季節の彩りが感じられる空間となるよう配慮している。トイレは1号館に4か所あり、2号館もそれをふまえて設計し数多く設置している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人でゆっくり過ごせるスペースがあったり、椅子やソファを所々に置き、休憩したり自由に座ってもらえる場所を工夫している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものだけでなく、家族の写真や、本人の手作りのものを置いて、自分の部屋だと安心できるようにしている。	使い慣れたものを自由に持参している。筆筒や鏡台、本棚やぬいぐるみなどそれぞれになじみの深いものを持参し個々に落ち着ける環境を整えている。利用者の自宅やこれまでの生活を確認し、本人、家族と話しながら配置も行い整えることで過ごしやすさにも配慮している。	

自己	外部	項目 (1号館)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯や掃除など本人のペースに合わせ、時にはきっかけを与える事で、自分の出来る事を出来るようにしている。物の位置に気を使い、安全で動きやすいように、利用者の状態が変わるつど、環境を整えている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目 (2号館)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえた理念を作成し、事務所内へ掲示している。又、月1回のミーティングで理念を唱和し、共有、実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍にて、なかなか地域との付き合い(行事の参加)も困難な状況で実践できていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為、困難な状況である。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価を活かして、改善に向けての努力はしている。		
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は途中より、2ヶ月に1度の運営推進会議がコロナ禍により開催できず、書面(文書)を郵送し、報告している。又、書面にて意見を確認し参考になっている。		

自己	外部	項目 (2号館)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町担当者には、以前は運営推進会議に出席していただいていたが、コロナ禍にて出席できない為、電話や窓口で直接出向いて相談等をしている。		
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修をミーティングで行い拘束しないケアをしっかり話し合っている。施錠は利用者の安全が第一で、安全が確保できない場合は家族の了承を経て、センサーマットや玄関施錠をおこなっている。		
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングや研修で虐待防止について勉強し又、話し合いやお互いに注意しあえるようにし、未然に防止できるよう努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は活用されている方はいない。必要があれば支援を行えるようしたい。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族に説明し理解・合意を得るようにしている。契約後においても不明な点や疑問があれば、丁寧に説明・返答している。		

自己	外部	項目 (2号館)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に、相談、苦情の受付体制については家族へ説明している。家族が面会に来られた際には、日常の様子などを話して関わりを持ち、どんな相談でも聞けるようしている。		
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングで話し合いをし、職員間で共有し反映している。		
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働就業時間内に帰れるように、業務の流れを作っている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ミーティングで内部研修にて学んで貰っている。外部研修については、コロナ禍の為、機会が少なく受講できていない。		
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為、交流の機会がなかった。		

自己	外部	項目 (2号館)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族や本人に意見を聞き、不安や要望に等に耳を傾けながら、アセスメントを実施している。また、気持ちや思いに寄り添い、受容し安心感を持っていただき、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾け、話し合い、相談しながら関係作りに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	しっかり聞く事で、何が必要なのか考え、本人や家族と相談しながら、必要とするサービスを見つけている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩として、敬意を表し、生活の中の色々な場面において、本人ができることはして貰うと共に、私達も知恵を借り学ばせてもらうことが多い。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	思いやる気持ちを大切にしながら、優しく関わっている。又、本人の希望・要望がある時は、必要に応じて家族にも協力してもらっている。		

自己	外部	項目 (2号館)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍にて個別外出ができていない。又、馴染みの場所に行けず、馴染みの人などにも、なかなか出会えていない。		
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全体を見ながらデイルームの席などに配慮している。利用者同士の関係性にも配慮しつつ、お互いに思いやりを持って過ごせるよう考慮している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時には配慮のある対応をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人をしっかりと観察し、会話や行動の中で、何を必要としているかを見極め、会議で検討し、職員間で共有している。		
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人の生活歴、馴染みの暮らし方、生活習慣、生活環境などについて、家族からの聞き取りや資料により、情報収集をきちんと行っている。		

自己	外部	項目 (2号館)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人に寄り添い、しっかりと関わりながら見守り、観察し、身体・精神状態、できること、できないこと、1日の生活リズム等の把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の想いや家族の意向、主治医や職員の意見を参考にして、ケース会議で意見交換することにより、その人に合った計画を立てている。		
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録や申し送りで、日々の様子や気づきを共有し、それに基づいたケアを職員間で連携している。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の要望に合わせて、その時々にもニーズに対応できるように努力はしている。又、サービスの多機能化への取り組みはまだこれからの課題というところです。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により、これまで行ってきた支援ができない状況が続いている。		

自己	外部	項目 (2号館)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は家族が行っているが、緊急時には看護師又は職員が対応している。状況が変わった利用者や家族の希望があれば、職員も受診に付き添い、家族や主治医とも情報を共有できるようにしている。		
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の中で気づいたことを看護師へ相談したり記録に残している。家族の医療的な希望や疑問も看護師へ伝え、出来るだけ看護師本人から家族へ説明してもらったり受診に付き添ったりして、医療面でも安心できるようにしている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃より、病院関係者(連携室)との関係作りに努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化する前から利用者の状態を、家族とも話し、重度化した際に、他施設や病院への入所・入院も含めて支援できるよう取り組んでいる。		
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	コロナ禍により外部研修には参加できていない。ヒヤリハットの反省を通じて、事故を未然に防げるよう、常に安全を意識しながら利用者にかかわっている。		

自己	外部	項目 (2号館)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に1回、避難訓練を行っている。非常時には同一法人内で協力体制ができており、併設の特養は地域の避難場所となっている。非常時に備え、常に水や非常食の備蓄をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	思いや気持ちに配慮しつつ、その人に合わせた言葉かけを心掛けている。		
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いを口に出せるような雰囲気、環境を作り、表情や発言を見ながら、自分で選択できるよう支援している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな流れはあるが、本人のペースに合わせ、臨機応変に対応している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	これまでの習慣を大切に、それが続けられるように支援している。自分で好きな衣類を選んでもらったり、化粧品を購入し、自分で化粧をしてもらったりしている。		

自己	外部	項目 (2号館)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食べ物の好き嫌いを聞き把握することで、献立に活かせるようにしている。食事の準備や片付けは、何ができるか、どこまでできるかを把握し、達成感が持てたり、習慣を続けてもらえるようにしている。		
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量が少ない方には、好みのものを提供したり、食器などを小さい物にして量を少なく見せたりという工夫をして提供している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	習慣になっている方は、継続できるよう環境を整え、出来ない方は気持ちに配慮しつつ声掛けをしている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表への記録をすることで、パターンを把握し、失敗を防ぎ、自然にトイレへ行けるよう工夫している。難しい方は、言葉に配慮しながら声掛けをしている。		
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常の活動量・食事量・水分量・精神状態・薬の内容を把握するようにしている。時には看護師に相談し、便秘薬を使用する事もある。		

自己	外部	項目 (2号館)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	個々に応じた入浴時間の確保は困難ではあるが、希望の入浴時間や温度調整が出来るようしている。入浴も自分から入ろうと思えるような声掛けも工夫している。		
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣を把握し、休息や休む際には、光や音楽などを落ち着いて、リラックスできるものなどにしている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のロッカーに、薬の情報を貼っておき、職員がすぐに見えるようにしている。服薬は、名前、日時を確認し、手に出してあげきちんと服薬したかを傍にいて確認している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴から把握し、好きなこと・得意なこと・興味関心のある事・趣味の物・出来そうな事など、個々にあったものをして貰ったり、時には皆で協力して出来ることもしている。		
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は出来ている。コロナ禍の為、外出支援は思うように行えていない。		

自己	外部	項目 (2号館)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方がお金を所持していない。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っておられる方もおり、自分から家族へ電話を掛けたり、家族より電話がかかってきたりしている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や掲示、装飾、音楽をかけるなどしている。又、空調の調整や換気を行い、快適な室温管理を行っている。		
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子やソファーを利用し、一人でも少人数でも過ごせる場所を作っている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのもの、家族の写真などを置いて、自分の部屋だと安心できるようにしている。		

自己	外部	項目 (2号館)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人のペースに合わせ、洗濯や掃除など安全な環境整備をしたうえでできることをしてもらっている。		

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームみずき

作成日 令和5年1月31日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	14	職員を育てる取り組みについて。 コロナ禍にて、外部研修に参加できていない。	職員の知識・及び技術の向上に努める。	外部研修への参加の機会を設け、職員に働きかけていく。	12ヶ月
2	11	家族との関係は良好なものとなっているが、定期的に意見や要望について表せる機会が確保されていない。	アンケートを実施して、家族が意見、要望を表せる機会を確保する。	年に2、3回、アンケートを実施して、意見、要望等を書いてもらい、それを日頃のケアの実践に活かしていく。	12ヶ月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。